

岩木山を考える会
2018年度総会議案書
(確定版)



藤原竹二氏 撮影

日時：2018年4月8日（日）13:30～15:30
場所：弘前市民参画センター

2018年度岩木山を考える会総会次第

日 時 : 4月8日(日)13:30~15:30

場 所 : 弘前市民参画センター

次 第 :

- 13:30 司会による開会宣言
 会長あいさつ
 議長選出
- 13:40 議事
- 第1号議案 2017年度活動のまとめ
- 第2号議案 2017年度収支決算報告
 会計監査報告
- 第3号議案 2018年度活動方針(案)
- 第4号議案 2018年度予算(案)
- 第5号議案 役員体制(案)
- 第6号議案 会則改訂(案)
- 14:30 質疑応答・意見交換
- 15:25 議案採択
- 15:30 閉会宣言

お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

(この場で懇親会を行います。)

第1号議案 2017年度活動のまとめ

1. 岩木山をめぐる情報・活動報告

<3月>

- ・ 3/26(日)に百沢スキー場から焼止までカンジキで往復山行。急斜面も雪は結構締まっていた。避難小屋の尾根に渡る沢は右岸にいくらか雪庇が出来ていた。避難小屋は庇まで雪が積もっており、高さ1mの屋根雪とつながっていた。中には全く入れず。(竹浪)
- ・ 3/31(金)嶽から登ったが、下はぬかって大変だった。巨木の森から上のあたりになると締まっていた。まだ雪崩は油断できない。久しぶりにイヌワシを観察した。(阿部)
- ・ 3/12(日)嶽コースを8合目まで歩いた。固まった踏み跡を歩いたので楽だった。スノーモービルが追子森を走っていた。(藤原)

<4月>

<5月>

- ・ 5/3(水)夕方、赤倉登山道で女性の径迷いによる遭難者発生。携帯で連絡が取れていたため、弘前労山、警察、消防団が捜索するも発見できず、翌4日に再び捜索開始し、朝6時半前にヘリが遭難者を発見救助した。赤倉右岸尾根から9番観音方面に左折するところを見逃がし、そのまま尾根を下ったために、居場所を確認できなくなったらしい。救助時本人は元気で、不注意を謝っておられた。但し、本人が救助された場所は捜索していた場所から南に沢を1本隔てた場所で、ヘリがなければ救助までには相当な時間を要したものと思われる。捜索のあり方に課題が残った。(竹浪)
- ・ 5/9(火)小白沢に入った。雪が多い。リュウキンカが咲いていた。(竹谷)
- ・ 5/9(火)弥生旧登山道と弥生スキー場跡地のザリガニの沢、後長根の沢を歩いた。平年より残雪は多め。(齋藤)
- ・ 5/8(月) 4/6に弥生スキー場跡地の車輪の樹の下に死んだイタチのトラップをかけてきたのを点検に行ったら何匹か虫が取れていた。長平付近に太陽光のパネルが設置されている。草に殺虫剤をかける可能性があるので、様子を見ておく(阿部)

<6月>

<7月>

- ・ 7/31(月)阿部幹事と二人で鳥海山頂の地震計設置状況とコマクサ調査、その後、鳳鳴小屋調査、焼止小屋調査、焼止小屋付近の傾斜計調査。地震計の設置場所は、当方の要請に沿って灌木の伐採を最小限にしていた。但し、アンテナ設置場所は崩れ部分に設置されており、今後、崩れが広がらないか監視が必要。コマクサは観察できなかった。二つの避難小屋は、従前どおりだった。焼止の2階入り口の庇は壊れたままになっている。傾斜計はアンテナが折れ、ソーラーパネルが破損するなど、一冬で使い物にならなくなっていた。当方の指摘が裏付けられた格好。今後、どのような対応をするか中止が必要。気象庁に対して、会として正式に抗議・注意を促すことにした。(竹浪)
- ・ 後長根沢の崖崩れが見られている。(齋藤)
- ・ 7月 長平コースを歩いてみた。スキー場を過ぎて中腹から上は地元の方々が刈り払いをしてくれていた。(齋藤)
- ・ 7/30 長平町内会15人ほどで刈り払いをやった(陸奥新報記事)

<8月>

- ・ 8月上旬 後長根沢の崩壊がまた発生しているようだ。(百沢スキー場からの観察)(齋藤)

<9月>

- ・ 9/4 弥生登山道7合目ちょっとあたりまでのぼった。人があまり来ないのでクマも出てくるのかな。(藤原)
- ・ 9/10 弥生コースで5～4合目の間に下山時、間違えやすい箇所が3～4か所あった。(齋藤)
- ・ 9/17 百沢コースを焼止から15分ほど先まで登山。近くに傾斜計が設置されていた。(藤原)
- ・ 9/19 岳コースを登る。鳥海山にも地震計の設置を確認した。(藤原)
- ・ 9/25 岳登山道ブナ帯にトドマツ？巨木の森に向かう右側に白樺？またはダケカンバ(白っぽい)？50本程。いずれも葉が高くて確認に至らず。(齋藤)

<10月>

- ・ 10/2、長平登山道刈り払い状況を見てきた(ゲレンデまで)。笹は刈りはらわれていたがもう少し上の方で刈った方がいいのではないか。スキー場コースもきれいに刈りはらわれていた。(齋藤)

<11月>

<12月>

<1月>

- ・ 1/21百沢から焼止避難小屋へ(一泊)、22日岩木山登頂。(竹浪)
百沢スキー場上部尾根は、普段より積雪が少なく、灌木が雪の上にたくさん頭を出していた。スキーで登坂。
百沢スキー場上部ブナ帯を過ぎた急斜面を越え、尾根から沢を一つ渡るが、雪が少ないため、いつもよりくぼみが大きかった。雪庇はあまり出来ておらず。
焼止の屋根の積雪は1.5mほど。この様子は、弘前市に知らせておいた。備え付けの鉄の梯子が壊れており、代わりの木の梯子は不安定で危険。修理が必要。
翌朝、カンジキで登頂をめざす。鳥海斜面(大沢右岸)は、20～30cmの深さでラッセル。斜面はひび割れた様子はなかった。種蒔苗代近くは氷帯となる。降雨で溶けた雪が凍結したのだろう。種蒔苗代から鳳鳴避難小屋までは、30～50cmのラッセル。種蒔苗代の上部御倉石近くは、雪がまだ落ちておらず、踏み抜いて腰まで埋まることが数度あった。
鳳鳴避難小屋の着雪ーエビのしっぽは例年よりこぶりだ。避難小屋の様子も弘前市に知らせた。戸が外れており、5センチほどの隙間から雪が入り込み中に積もっているようだった。戸を開けることは出来なかった。
おみ坂は着雪が少なく、雪氷。標識も見える状況。エビのしっぽが多数西に向かって伸びていた。
テラスからは、正面を直登したが、ある程度厚い氷の上に雪が付いており、灌木の底が抜けることなく登坂できた。頂上は普段よりは積雪が多いようで、奥の院の屋根がかろうじて見えている程度だった。

1/21 11:00スキー場発(リフト) 13:15焼止着

1/22 6:30焼止発 9:40頂上着 10:45焼止着 12:45スキー場着

<2月>

<3月>

- ・ 3月24、25日、百沢スキー場→(スキー)→焼止避難小屋(テント泊)→(ワカン)→鳳鳴避難小屋→頂上→下山。今年は西からの風が強かったためか、焼止付近大沢右岸に大きな雪庇が出来ていた。春の柔らかい雪でも、午前中は雪庇の下は日陰になるためか凍結しており、スキーのエッジが立たないほどだった。沢を下るスキーヤー、ボーダーは要注意。焼止避難小屋は屋根上1mほどの積雪。2階入口からも出入りが出来るが、小屋に明かり取りがないため、入口を締めると真っ暗となる。明かり取りがほしい。また、避難小屋にストーブを設置してもらえないだろうか。燃料は持参で差し支えないと思う。鳳鳴避難小屋の入口のガラスが破損し、内部に雪が侵入していた。風圧によるものと思われる。入

口の鴨居の材木が腐食しており、覆っているコンクリートが浮き上がってきている。入り口部分の抜本的改修が必要と思われる。おみ坂登坂は氷混じりの雪で、アイゼンなしでも十分可能。山頂へはテラス真下から直登出来た。頂上から眺めた巖鬼山付近、頂上から東側20mほどに大きな雪の割れ目が100mほどの長さで一直線に走っていた。融雪が進むと底雪崩の危険があるように感じた。(竹浪)

2. 2017年度のまとめ

(1) 岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う

【まとめ】

年間を通じて6回の岩木山講座を開催しました。今年も去年に続き、岩木山近辺にこだわらず、岩木山を遠くから眺めることも含めて企画しました。講座を通じて、岩木山とその周辺の自然をともに考えあう機会を持つことができたように思います。講座を実施するにあたり、あらかじめ参加者の万が一を想定し、年間の団体保険に加入しました。

岩木山講座① 志賀坊春の観察会

日程 4/30(日) 10時30分～13時

集合 志賀坊公園駐車場

参加者 27名

様子 ・人数が多かったので、観察の列が長くなったが、間に解説できる人が何人もいたので、参加者は花の説明を十分聞くことが出来た。

・志賀坊祭りとおぶつかり、昼の休憩所を使えなかった。外は風が強く、昼食をとるのをあきらめて解散した。

・現地での申込者が4名いた。

岩木山講座② 弥生スキー場跡地観察会(弘前市「弥生いこいの広場隣接地利活用に係る自然観察会」と兼)

日程 7/2(土)10時～12時

集合 弥生いこいの広場駐車場

参加者 40名、うち大人15名、子ども12名。その他、弥生ネット関係の参加者、市職員13名参加。

様子 ・2班に分かれ出発。ヤマナメクジの発見で子供たちが大騒ぎ、ニホンザリガニの谷では最高潮となった。全員がザリガニを手へのせ、そして又谷川へ返した。ザリガニから先の観察道はかなりきつく、ロープが張られてある。子供たちは低学年の子供もいたがいたって元気。一番高い所まで一気に登った。その少し手前に熊のウンチがあるのだが気がつかない。結局竹谷さんが「これなんだ？」とはじまり、これまた大騒ぎ。ワラビとりをしたり、今年は発生が少なく見つからなかったクスサンの蛹は今年の抜け殻を土から掘り起こした子がいたし、ゴマダラオトシブミの葉を巻いたのやヤナギの根を食い尽くしているテッポウムシ(イタヤカミキリの幼虫)などを観察した。子供たちのバイタリティに度肝を抜かれ、大変楽しい1日だった。ご苦労さんはコープあおもりの土岐さんが豚汁の具を急遽増やしたり大活躍。豚汁は格別おいしくいただいた。

岩木山講座③ 岩木山嶽ゴマシジミ観察会

日程 8/20(日)10時～12時

集合 嶽農村公園駐車場

参加者 3名

様子 ・草が伸びていたが、ゴマシジミがわずかだが見られた。今後、組織的に灌木を伐採する必要あり。

・6月の刈り払いが齋藤幹事一人だったために、十分行えなかった。来年度は刈り払いをきちんと行う必要あり。

岩木山講座④ 岩木山後長根の砂防堰堤観察会

日程 10/15(日)10時～12時

集合 百沢スキー場駐車場

参加者 9名

様子 ・3台の車に分乗し、目的地まで移動、堰堤を観察した。
・数年単位で観察会を実施し様子を把握すべきだと思う。
・モミジはよかった。

岩木山講座⑤ 座学「岩木山の噴火について」

日程 1/27(土)13時30分～15時30分

場所 弘前市みどりの相談所集会室

講師 佐々木実氏（弘前大学工学部講師 地球環境防災学科）

参加者 110名

様子 ・とても勉強になった。資料が役立った。市民の関心が高かった。

岩木山講座⑥ 冬の岩木山観察会～嶽温泉周辺～

日程 3/18(日)9時～12時

集合 嶽温泉駐車場

参加者 18名

様子 ・嶽温泉の背後周辺で、初めてのコースだった。下見で何を見せるかを把握しながら行った。今のシーズンの樹木の形態、動物の足跡などが観察できた。ガイド団体からの参加もあり充実した中身だった。

(2)岩木山写真展を例年のように行う

【まとめ】

日程:2月9日(金)～11日(日)

会場: NHK 弘前ギャラリー

入場者数219名(去年 236名) 1日目:65名(37名) 2日目93名(112名) 3日目61名(87名)

出展者18名 出展数72点(去年20名 出展数 66点)

故竹谷さんの家族も会場においでになり、懇親した。ご家族に竹谷さんの活動をよく分かってもらえたのではないだろうか。来場者は微減。出展数は竹谷さんの追悼展示で増えた。

(3)弥生スキー場跡地の観察と学習を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。

【まとめ】

6/2から7/2にかけて、今年も、当会が加入している弥生スキー場跡地を考える市民ネットワーク(以下、弥生ネット)が2011年から継続している、弥生跡地の毎木調査、動物調査、植物調査、野鳥調査を実施しました。毎年得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です。

6/2に実施した植物調査では、ウォッチング青森の会員に協力いただき2名で実施、202種の植物をカウントしました。11年からの延確認種数は338種になりました。

7/2に毎木調査を実施し2名で計測。1年間で対象木30本の幹回りが平均2.7cm成長していることを確認しました。同日、動物調査も実施しています。

6/24、日本野鳥の会弘前支部会員に協力いただき、2名で野鳥調査を実施しました。観察された野鳥は28種。新たに観察された鳥は3種(イワツバメ、イカル、スズメ)でした。

11/21に、秋の毎木調査を3名で実施しました。1年間の成長は2.6cmでした。

11/22に、日本野鳥の会弘前支部会員に協力いただき、秋の野鳥調査を2名で実施しました。観察された野鳥は20種類。新たに観察された鳥はありませんでした。野鳥調査は2013年から始め、この5年間で59種が観察されています。

弥生スキー場跡地での観察会は2回実施しました。いずれも、弘前市が「親子で自然観察会 in 弥生こいの広場隣接地(リゾート跡地)」として実施しているもので、弥生ネット、岩木山を考える会が全面的に協力しています。第1回は7/2に、岩木山講座②として実施しました(5ページに記載)。第2回目は、9/23に実施しました。1回目の参加者は親子を含む40人。2回目は24人でした。2回目には、子どもたちが捕まえた虫を標本にし、その虫の写真に解説をつけたリーフを後日参加者に配布しました。2回の観察会を成功させるために、事前調査をそれぞれ1~2回実施しました。

(4) 岩木山の自然調査を進める

① 市民参加の観察会や調査会を行い、結果を記録し残す

【まとめ】

今年も6回の岩木山講座の実施、弥生跡地の自然回復調査と2回の観察会、嶽農村公園付近の刈り払いとゴマシジミの観察会を行い繁殖状況の把握等を行いました。(各項目に記載)

7/31(月)、岩木山鳥海山頂付近のコマクサ調査を阿部、竹浪で実施しました。その結果、繁殖は確認されませんでした。

東奥日報の記者から、岩木山の雪が消えた日のデータは取っているかとの問い合わせが入りました。今年は例年になく遅い気がするのだが、ということからの問い合わせでした。7月中旬ころとは答えましたが、データは取っていません。今後、会として、岩木山の消雪の日にちのデータを記録しておくことにしました。

② 弥生跡地の動植物調査をウォッチング青森と協力し行う

【まとめ】

・ 6ページ(3)に記載

③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う

【まとめ】

9/22(金)に2人で実施しました。上の湿地に流れ込んでいる土砂の拡大が危惧されましたが、大丈夫でした。湿地で観察された動植物は、マメゲンゴロウ、ヤゴ、ツマトリソウ、モウセンゴケ、クロバナロウゲ、アシガヤ、アオモリミズゴケ、サワギキョウ、ギボウシ、ミズバショウなどです。

登山道は、きれいに刈り払いが行われており、とても歩きやすくなっていました。しかしゲレンデを通っている部分が、ススキの藪でほとんど見えず大変でした。(後日、見たところ、ゲレンデ全体が刈りはらわれており、歩きやすくなっていました。)

④ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)

【まとめ】

9/23に実施した弥生スキー場跡地観察会で子供たちが採集した虫を同定し、後日、採取した子供たちに情報を返しました。

⑤ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える

【まとめ】

特になし

(5) 岩木山の環境保全に寄与する

① 登山道等の整備を関係機関に働きかける

【まとめ】

(ア) 弥生登山道の整備

今年は8月30日に弥生登山道整備調査を実施しました。総勢12人、当会から阿部、竹浪が参加しました。マイクロバス、リフトを使いながら頂上まで登り、弥生登山道を下山しながら、要整備箇所を確認しました。頂上から9合目までの東側斜面の登山道の一部に崩落があり、このまま使い続けると植生にも影響を与えかねないとの危惧が出されました。更に、9合目から8合目までの南側斜面を横切っている道も一部崩落が拡大しており、笹の繁茂が著しいことと併せて、維持が困難だと判断となりました。8合目から6合目付近までも笹がかぶさってきており、刈りはらうことにしました。標柱の修復を2か所を確認しました。

10/11、岩木山環境保全協議会の情報交換会が開催されました。その中で、弥生登山道の8合目から上は、廃道とすること、8合目から赤倉登山道へのう回路を新たに切り拓くことが確認されました。弥生登山道8合目付近には、貴重な湿地帯があります。当会からは、その湿地帯に影響が出ないように道をつけてほしいと指摘し、その方向で作業が進むはずでした。

新たな道をつける日は、当会からも作業を見守るために参加したのですが、あいにくの悪天候で、作業は延期となりました。その後、8合目から赤倉登山道につながる新たな道がついたとの情報が入りました。ところがその道は、湿地帯を避けるのではなく、湿地帯に沿ってつけられたと言うのです。その後の協議会情報交換会で、なぜ湿地帯を避けずにつけてしまったのかが問題となりましたが後の祭りです。今後、湿地帯が失われるのを避けるための方策を、雪解けが進んだ段階で現場を見ながら検討することになりました。

う回路の整備に伴い、頂上の標識の付け替え・新設の必要も指摘されています。

弥生登山道8合目から上の付け替え道路新設については、以上のような議論が進められていますが、他方、付け替え道路の新設を良い機会と捉え、山頂→赤倉→弥生登山道の周遊ルートを作り観光アピールしたらどうかとの提案が協議会で出されています。これまで、山体崩落を防止するために、廃道にすることで議論が進んできていますが、逆に補修・維持をする提案となっていきます。確かに、弥生登山道8合目から山頂にかけては素晴らしい眺望ですが、実際に登山道の補修と維持が可能なのかも含めて慎重な議論が必要です。

(イ) 岩木山赤倉登山道の整備

赤倉登山道の26番観音付近の崖の崩落が進み、登山道が危険になってきている問題は、当会がこの間何度も指摘をしてきました。この指摘が実り、18年度、う回路をつける方向となってきています。事故が起きる前に、安全な道を設定したいものです。

(ウ) その他、岩木山環境保全協議会総会での提言

8月2日に岩木山環境保全協議会総会が開催されました。総会には、小堀会長と竹浪事務局長の二人が出席しました。今回も、登山道整備をはじめとした岩木山の保全・整備等に関して意見を述べました。提出した意見に対して1時間以上議論がはずみ、一定の改善策が確認されました。環境保全協議会はその後、10/10に打ち合わせ会が、12/22に情報交換会が開催されるなど、比較的活発に活動が行われました。

以下、総会に提案した当会の意見とそれに対するこれまでの対応について掲載します。

2017年8月2日

岩木山環境保全協議会平成29年度通常総会への提案・意見

1. 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

昨年総会で、う回路をつけることが議論になりました。現在、テープ・看板などで危険喚起をしているところですが、崖の崩壊が徐々に進行していますので、早めに対策を講ずることが必要です。

＜要望・提案＞

去年嶽登山道で実施したような、会員団体合同での調査を実施するなどし、う回路を付ける方向について具体的な検討に入ってください。

(結論)津軽森林管理署が改めて現地を視察し、対応策を検討することになった。

2. 焼止、鳳鳴小屋整備の件

2015年度の予算で避難小屋が整備されました。ただ、整備内容の一部についてどのような専門的見地が取り入れられたのか、はなはだ疑問なので、改めて問題を指摘します。岩木山を青森県の観光資源として考えているのであれば、県外からの登山者にも誇れるような整備をすべきではないでしょうか。国定公園なので、県としてもっと考えるべきです。

鳳鳴避難小屋については、入口の引き戸がさらに改修され、雪が吹き込まないような棧がつけられました。しかし、去年の協議会の場で冬場の開閉はやめてほしい旨の発言があったように、引き戸の材質等の仕様が平地住宅用のアルミサッシで、鳳鳴小屋のような高山での冬場使用に耐えるものではありません。こうした状況に鑑み、冬季の登山者の万が一の安全を図るために、対応策を講じておくことが必要です。

焼止避難小屋については、軒や外壁、備え付けのベンチなどの内装の修繕が行われました。しかし、相変わらず厳冬期に利用することになる2階入口のコンクリート庇が折れたままになっています。また、今年のように積雪が多い時は、入口が完全にふさがってしまいます。

＜要望・提案＞

鳳鳴避難小屋は、冬季でも開け閉めできるようなドアに付け替える(八甲田山や八幡平の避難小屋参考)べきです。冬季使用が出来ないということでは、大館鳳鳴高校遭難の悲劇が二度と起こらないようにと避難小屋を設置した意義が失われるのではないのでしょうか。

焼止避難小屋は、1)コンクリートの庇の修繕をお願いします。できればもう少し幅があれば使いやすと思います。2)多雪の時に入口を確保できるよう、入口付近の壁にスコップを取り付けていただけないでしょうか。3)小雪の時に庇に上られるように、横に鉄の梯子を取り付けていただけないでしょうか。梯子は下まで届いている必要はありません。

鳳鳴、焼止両方に言えることですが、避難小屋が登山道修復等のための物置を兼ねているような状況があります。修理の部材などは小屋の裏などに保管するようにして、避難小屋を快適な空間にすることも今の時代には必要なことです。

作業が必要な場合は、協議会として協力体制をとったらどうでしょうか。そのような提起があれば当会としても協力します。

(結論)市担当者が八甲田の避難小屋の建設費を聞いたところ1億円かかるとのことだった。協議会としては、やるのであれば本気になって市や県が国からの補助を申請するなどの動きをしてもらいたい、ということになった。

3. 入山ポスト設置の件

入山ポストについては、昨年、百沢、嶽、弥生の3つの登山道に設置されました。今後、さらに利用しやすいものにしていくために工夫を重ねる必要があるかと思います。外国人が登山ポストを見ていたとの情報もありました。嶽に設置したポストが積雪(除雪?)のために雪の中に隠れてしまいました。なんらかの対策を講じないと、せっかくのポストが壊れたりしかねません。また、投函された入山届はどのように扱われているのでしょうか。

＜要望・提案＞

① ポストが冬季でも使えるような対策を講じて下さい。

(結論)冬季は公衆トイレの方に移す方向で地元と調整することになった。

② 岩木山登山道残りの二つ、長平登山道と赤倉登山道への設置実現をお願いします。

(結論)赤倉登山道に取り付けられるよう、努力することになった。長平登山道は当協議会の管轄ではないので、現時点では難しい。

③投函に伴うデータを、差し支えない範囲で公表してください。そうすれば、利用状況が把握でき、関係者への働きかけも促進されると思われます。(例)投函件数、主な山行日程、人数など

(結論)弘前警察署が回収を担当しているので、警察に聞いてみることにした。

④外国人にも対応できるように、表示や計画書の様式が英文のものを作成願います。

(結論)市で英文のものを作成することにした。

4. 岩木山頂トイレのハエ対策の件

岩木山頂を飛んでいるハエ何種かについて、昨年6月に当会で調査した結果、そのうちの一種が「ルリキンバエ」と同定されました。これはトイレに発生するものです。岩木山頂のトイレがハエの発生源になっている可能性が強いと考えられます。この問題では、4月初旬行われた当会総会で、お山参詣で多人数が頂上に立つとき、トイレの利用回数が多くなっており、足踏み式回転数を守っている余裕などないのではないかと。我慢できずに周りで用を足している者もいる、などの意見がだされました。もしこのような状態が事実だとすれば、お山参詣時には、携帯トイレの活用も含め、トイレ対策をもっと真剣に考えていただかなければなりません。せつかくの名峰も、頂上のハエで台なしとなります。

<要望・提案>

① お山参詣時に携帯トイレ使用を試行してみたいかがでしょうか。

(結論)基本的に携帯トイレを使用するのは時代の流れになっているので、来年の実施に向けて準備をしていくことにした。

② 頂上登山者への啓発活動の徹底が必要かと思われます。とりわけ8合目からの登山者には、レストハウス入口やリフトの前に、トイレを済ませていくことを記載した、チラシの配布や目につく掲示などが必要ではないでしょうか。

(結論)EM強化剤を配合し分解力を高める手立てを講ずるのが望ましいと言うことになったが、予算がないので、そこは事務局で検討することになった。

(付)スカイライン8合目には、トイレ以外にも、盗掘や軽装での登山禁止など、登山マナーについて注意喚起をする看板掲示が必要です。リフト利用者の服装に対しては、係員からの声掛けも効果的だと思われます。

5. 違法走行スノーモービルの件

スノーモービルによる特別保護地区への侵入(違法走行)が今年も見られています。県外からも来ているようです。対策を強化すべきと考えます。県で掲示物を作って張り出しているようですが目立ちません。大きな看板を要所に立てることも必要ではないでしょうか。

<要望・提案>

① スノーモービルの特別保護地区走行禁止の掲示・看板を要所要所に、もっと目立つように設置してください。

② 県外も含めスノーモービルを愛好する団体や販売・修理業者への働きかけをして下さい。

(結論)もういい加減啓発活動の段階を過ぎている、との認識で一致した。今年は警察署と森林管理署の協力を得、一斉取り締まりをする方向で準備することにした。

6. 不法投棄ゴミの件

岩木山周辺至る所に不法投棄されたゴミが散らばっています。現在、岩木山観光協会が年2回エコプロジェクトを実施してごみを回収していますが追い付いていません。

<要望・提案>

協議会としても回収を実施するなど、対策を強化してはどうか。

(結論)環状線の内側にはゴミがあふれており、森林管理署としても困っている状況がある。岩木山観光協会が実施しているエコプロジェクトの経費は1回25万円なのに、トラック1台のゴミを廃棄するだけで22万円の経費が掛かる。個別に対応できるレベルではなく、もっと大規模に、広範囲にやらなければならない、という認識で一致した。

7. 気象庁設置の傾斜計破損の件

旧焼止避難小屋跡に気象庁が設置した、岩木山の火山活動動向を測定する「傾斜計」が、ひと冬で破損してしまいました。設置場所について、事前に気象庁から当会に相談があり、当会としては設置しても雪が動いて破損してしまうので、やめた方がいいのでは、と意見を述べました。しかし意見を無視して設置した結果、当会の危惧が当たり、国民の税金が無駄遣いとなりました。岩木山の危険な動きを監視する装置ですから、当会としては気象庁に協力することはもちろんですが、もし、協議会として対応していれば、もっと強力に意見具申が出来たのではないかと思っています。今後、再度設置することになるかもしれませんので、その際に対応について、協議会としてかかわることが必要かと思えます。

<要望・提案>

こういう問題については、協議会として臨機応変に対応することにしていただきたい。もし気象庁から相談があっても、当会としては協議会として対応する旨返答したい。

(結論) 今後は、環境保全協議会として対応することにした。

尚、鳥海山頂に設置した「地震計」の方は、当初気象庁が計画していた鳥海山頂の樹木帯伐採計画を変更し、当会の要望していた場所に設置されていました。ありがたいことです。

8. 岩木山環境保全協議会の会員団体に「弘前勤労者山岳会」を加えていただきたい

<要望・提案>

岩木山環境保全協議会規約「目的」を一層効果的に達成するために、標記団体を組織に加えて下さい。

経過: 標記団体は、地元で最も多く岩木山の各登山道を利用している民間団体の一つです。今年3月に行われた弘前勤労者山岳会の総会で、岩木山の環境保全を推進するために、要請があれば会として協力していくことを決定しました。この決定を受けて、会長から岩木山を考える会に、どのようにすればいいのか、相談がありました。そこで5月に当会が協議会事務局(弘前市)にその旨を伝え相談をしました。その後事務局からは、今総会で当会より提起してほしい旨の意向が示されました。そこで提案をさせていただき次第です。

弘前勤労者山岳会には、若い方々も多く加入しており、登山活動を通じての知見の共有や、協議会としての様々な取り組みにも活躍が期待されます。

団体名: 弘前勤労者山岳会

会の詳細: (略)

(結論) 協議会への加入が了承された。但し、今回の総会の議案扱いとはならなかったため、議決は次回の臨時総会、あるいは定例総会の場で確認することにした。その間、会の活動にはオブザーバーの立場で参加していただくこととした。その旨、事務局より弘前勤労者山岳会に連絡をし、確認と了解を得ることとした。

- ◇ その他、登山道整備のための現地調査を8月30日(水)に実施することにした。今年は弥生登山道を実施する。前回同様、頂上から下山しながら整備が必要な場所をチェックする。弘前市が確保している予算は100万円。時間、集合場所等は事務局より文書で通知が来る。
- ◇ 2016年度の予算で雑林鎌を2丁購入した。散歩館で保管している。会員で必要な場合は貸し出すの

で、登山道等の整備に必要な時は使って結構です。

- ◇ 去年確認された、協議会の決算以外に弘前市が岩木山整備に使った費用について、市から報告をしてもらう件が、今回申し送り不十分で実施できなかったのので、後日、事務局が整理し会員に対して報告することになった。

② 岩木山に関する情報を会員、岩木山パトロール等と協力しながら市民に伝える

【まとめ】

(ア) 弥生いこいの広場の整備について

2016年3月に市は弥生いこいの広場の整備計画を作りましたが、肝心の予算措置が出来ずにいます。この問題についてどうするつもりなのか、と市に問い合わせています。公園緑地課によると予算措置のめどが立たない状況が続いているとのこと。動物畜舎などが要改修のまま放置された状態になっており、引き続き注視していく必要があります。

(イ) 気象庁の傾斜計取り付け計画について

12月22日に開催された岩木山環境保全協議会情報交換会の場に、気象庁職員が出席し、取り付け計画案が説明されました。案は、百沢スキー場の最上部の更に上の平らな尾根部分に設置するというものですが、春スキーヤーの通り道になることから、衝突の危険があると岩木山パトロールから反対の声が上がりました。代替案が検討され、百沢焼止避難小屋の屋根の上に設置する案、リフト終点部のリフト支柱に設置する案などが出され、引き続き気象庁が持ち帰り検討することになりました。

(ウ) 岩木山嶽地域地熱資源開発調査事業について

10月30日嶽常盤野地区さわやかホールで、調査事業の説明会が開催され、当会から小堀、阿部、齋藤の3名が出席しました。スマートシティ推進室からの説明によると要点は次の2つです。

- 1) 調査事業の実施体制を、「市」単独から、市と地元の民間企業を中心とした調査体制とする。

弘前市＋嶽開発(株)＋中部電力(株)で協定を結び、共同事業体を作るとのこと。

- 2) 17年度冬から調査実施に向けた仮設道路工事を行い、18年度に掘削調査にかかる。

調査予定地は岩木山スカイライン料金所手前弘南バス保養所跡地の手前。広さ2000㎡。

この調査事業計画に対して、既に昨年度、当会からは、この間の経緯からは熱源にあたるかどうか疑わしいこと。計画ありきの事業で、地域の要望に即した事業になっていないのではないかと指摘をしています。国の補助事業で市の負担は少ないとはいえ、総事業費は20億を超えます。

説明会の場で、当会からは「これまで、地元振興にとって何か恩恵があったのか。」「環境アセスメントをしっかり行うべき」と指摘しました。事業が地域住民の要望に沿ったものになっていくのか、環境被害が出ないかどうか、など注視していく必要があります。

③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める

【まとめ】

今年の刈り払い作業は、日程調整がうまくいかず参加者が一人、鎌を使っての刈り払いを行いました。そのため、十分の広さを実施できませんでした。来年はきちんと行う必要があります。

ゴマシジミの保護のために刈り払いを行っていることを、ここを訪れた人にも理解してもらうために、看板の設置を検討しています。岩木山環境保全協議会からの了解も得ているので、2018年度には設置する予定です。

④ その他の活動

【まとめ】

(ア) 岩木山登山マップ改定への協力

弥生登山道の8合目からのルートが変更になったため、弘前市より、岩木山登山マップ改訂への協力が要請されています。分かり易く正確な登山マップ作りに向けて協力をしています。

(イ) 岩木山周辺の清掃活動の取り組み

- ・今年も岩木山観光協会主催エコプロジェクトが7/16と10/15の2回実施されましたが、当会からは参加できませんでした。

(6) 東北自然保護の集い秋田大会に参加する

【まとめ】

今年の第38回東北自然保護のつどいは、秋田・マタギの里集会として、「野生動物との共生を考える」をテーマに、9/2～3日に秋田県阿仁町の打当温泉で開催されました。当会からは阿部、齋藤、藤原幹事をはじめ6名が参加しました。参加者は70名ほどでした。青森県からは当会だけの参加でした。

集会は、テーマに沿って、まず①ツキノワグマの現状②シカとオオカミの作る生態系、という講演が行われ、それぞれ質疑が行われました。その後、二日間にわたって行われた各県からの報告は次のような内容です。

報告Ⅰ 3. 11後のフクシマの野生動物の状況

報告Ⅱ 最上小国川のダム建設差し止めの住民訴訟

報告Ⅲ 全国自然保護連合の活動

報告Ⅳ 秋田県馬場目川上流部のブナ植樹活動25年

報告Ⅴ 宮城県放射性指定廃棄物問題

報告Ⅵ 岩手県の自然保護問題

報告Ⅶ 青森県の自然保護問題

青森県からは、阿部幹事が「動物轍死」の調査について報告しました。集会の最後に大会アピール採択が行われました。アピールには、①野生動物と人間との共生は棲み分けが必要、そのためにも健全な山や森を再生してほしい。②増え続けるニホンジカやイノシシなどのコントロールに、ニホンオオカミの復活も選択肢の一つ。③ダムはもう不要。ダムのために水が流れていない河川をなくしてほしい。④日本は脱原発を進めるべき。との4つの趣旨が盛り込まれました。

集会の最後に、東北自然保護のつどいの開催横断幕を秋田県から青森県に渡す「引継ぎ式」が行われました。2018年は青森県が開催県となります。当会では、12月に県内他団体に呼びかけ、協議を進めてきました。その結果、この3月に「第39回東北自然保護のつどい白神集会実行委員会」が立ち上がりました。実行委員長は当会の小堀会長、事務局長も当会の竹浪事務局長です。現在、6団体が実行委員会に加わっています。実行委員会では今までに、今年のつどいを11月10日～11日(土、日)、西目屋村のブナの里白神館で行うことを決めています。今後、テーマ等具体的な内容を協議していく予定です。

(7) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

【まとめ】

今年も藤原幹事が編集長となり、紙面企画と原稿の割り振りを行いました。予定通り、4月21日、9月27日、12月22日の三回発行しました。執筆依頼を幹事だけでなく、観察会参加者にも個別にお願いしています。小倉幹事が入力・レイアウトを担当しています。

会報の印刷発送作業は、毎回幹事が参画センターに集まり、みんなで行っています。

会報は現在、関連個人・団体に向け、160部を発行しています。

(8) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)

【まとめ】

昨年度、体調を考慮して幹事降りた方がおり、1名欠員のまま活動を進めてきました。ところが今年9月

から竹谷副会長が体調を崩し、11月に入院、1月に亡くなられてしまいました。謹んでお悔やみ申し上げます。その結果、幹事は2名の減となりました。幹事会の強化・拡充が求められています。

会議は4月から毎月開催し、合計12回の幹事会が開催されました。議長は毎回幹事が交代で行っています。

(9)ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。

【まとめ】

ホームページの更新を再開しました。主に会報のアップですが、必要な情報をその都度更新しています。ぜひ、ホームページをご覧ください。フェイスブックでは、行事の紹介などを中心に行っています。

ホームページ<http://www.iwakisan.jp/>

フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索で見られます。

第3号議案 2018年度活動方針

- (1) 岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う
・座学講座を検討する
- (2) 写真展「私の岩木山」を例年のように行う
2019年 2月8日(金)～10日(日) 於、NHK ギャラリー
- (3) 弥生スキー場跡地の観察と学習を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。
- (4) 岩木山の自然調査を進める
 - ① 観察会や調査会を市民とともにに行い、結果を記録に残す
 - ② 弥生跡地の生物調査を行う
 - ③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う
 - ④ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)
 - ⑤ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える
- (5) 岩木山の環境保全に寄与する
 - ① 登山道等の整備を関係機関に働きかける
 - ② 岩木山に関する情報を会員、岩木山パトロールと協力しながら市民に伝える
 - ③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める(立看板)。
- (6) 会報を年3回発行する(4月・9月・12月)
- (7) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)
- (8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する
- (9) 東北自然保護の集い青森大会を成功させる
 - ① 日程 11月10日(土)～11日
 - ② 場所 ブナの里白神館(TEL 0172-85-3011)

※ 当面の予定

弘前市の小学生・教師への「岩木山登山アンケート」の実施

6月30日(土) セミナー「弥生の森」を考える(仮称) 弥生ネット・弘前市共催
講師:(公財)日本自然保護協会より

7月 1日(日) 第1回岩木山講座 弥生スキー場跡地観察会 10時現地集合
弘前市主催 弥生ネット協賛

第5号議案 役員体制

会 長 小堀英憲

副会長

幹 事 阿部 東 飛鳥和弘 小倉慎吾 金枝壽孝(新) 工藤龍雄 齋藤真人 花田一雄(新)
藤原裕貴子

事務局 竹浪 純(事務局長) 葛西拓美(庶務) 武尾照子(会計)

監 事 土岐修平 佐藤文猛

第6号議案 会則改訂

<改訂内容>

1. 第4条2項事務局の項目「会計2名からなる。」を「会計1名からなる。」に修正する。
2. 「附則 本会則(改訂)は、平成30年4月8日より施行する。」を付け加える。

<改訂の理由>

この間継続的に1名が配置され、またそれで特に支障が生じておらず、2名の配置の必要がないことから、この部分を改訂する。

岩木山を考える会 会則

第1条 名称

本会は、「岩木山を考える会」と称する。

第2条 目的

本会は、岩木山の自然を大切にし、豊かな環境で潤いのある生活を願い、真にあるべき姿を考え、守ることを目的とする。

第3条 会員

本会の趣旨に同意し、会費を納入した者を会員とする。

第4条 組織

- 1) 会長1名、副会長1名、幹事若干名、会計監査2名、顧問若干名
- 2) 事務局は、事務局長1名、庶務若干名、会計21名からなる。
- 3) 役員は総会において選任し任期を2年とするが、再任は妨げない。

第5条 会計

本会の経費は、会費及びその他をもってあてる。
会計年度は4月1日より翌年3月31日迄とする。

第6条 事務局

本会の事務局は、会計への連絡、便宜を図る。

第7条 附則

本会則は、平成6年4月1日より施行する。
本会則(改訂)は、平成10年4月11日より施行する。
本会則(改訂)は、平成12年4月8日より施行する。
本会則(改訂)は、平成14年4月14日より施行する。
本会則(改訂)は、平成30年4月8日より施行する。(追加)